

東北地方における物流の概況

1. 貨物輸送の概況（平成26年度分）

＜関連P14~17＞

東北での貨物流動量をみると、域外への発貨物が5,065万トン、域外からの着貨物が6,115万トン、東北地方域内輸送が4億5,668万トンとなっており、約9割が域内輸送であり、その殆どが自動車による輸送という状況に変わりはない。

東北域外との発着貨物輸送量における輸送機関別割合は概ね鉄道5%、海運39%、自動車が56%となっている。発着貨物とも東北域外分の輸送量は前年度比で減少した。

	輸送機関別	輸送量	分担率	前年度比	合計輸送量
東北発貨物	鉄道	344万トン	0.7%	96.1%	50,732万トン (前年度比103.2%)
	海運	2,653万トン	5.2%	102.4%	
	自動車	47,736万トン	94.1%	103.3%	
(うち東北発 他地域着貨物)	鉄道	257万トン	5.1%	94.8%	5,065万トン (前年度比93.6%)
	海運	1,836万トン	36.2%	99.6%	
	自動車	2,971万トン	58.7%	90.1%	
東北着貨物	鉄道	343万トン	0.7%	99.4%	51,782万トン (前年度比103.3%)
	海運	3,346万トン	6.5%	97.8%	
	自動車	48,094万トン	92.9%	103.8%	
(うち他地域発 東北着貨物)	鉄道	257万トン	4.2%	99.6%	6,115万トン (前年度比96.2%)
	海運	2,528万トン	41.3%	94.5%	
	自動車	3,329万トン	54.4%	97.1%	

2. トラック輸送の状況（平成27年度分：特種自動車を含む）

＜関連P32~33＞

管内のトラック輸送量はトン数ベースで4億3,097万トンで、営業用・自家用別に見ると、営業用が2億7,314万トン、自家用が1億5,782万トンとなっている。輸送トンキロでは233億9,607万トンキロで、営業用が205億8,026万トンキロ、自家用が28億1,581万トンキロとなっている。

	区分	輸送トン数			輸送トンキロ		
		トン数	分担率	前年度比	トンキロ	分担率	前年度比
東北	営業用	27,314万トン	63.4%	—	20,580百万トンキロ	88.0%	—
	自家用	15,782万トン	36.6%	—	2,816百万トンキロ	12.0%	—
	合計	43,097万トン	100.0%	—	23,396百万トンキロ	100.0%	—
全国	営業用	291,683万トン	72.6%	—	175,981百万トンキロ	88.4%	—
	自家用	110,205万トン	27.4%	—	23,449百万トンキロ	11.6%	—
	合計	401,887万トン	100.0%	—	199,430百万トンキロ	100.0%	—

※今年度から特種自動車を含めたため前年度比は今回は記載していない。

3. 鉄道貨物輸送の状況（平成27年度分） < 関連P36~37 >

管内6県の鉄道貨物輸送は、輸送トン数1,388万トン（前年度比99.0%）、輸送トンキロ3,732百万トンキロ（同100.9%）となっており、前年度に比べ、トン数が微減、トンキロベースは微増となっており、全国の傾向も同様の状況となっている。

4. 海上輸送の状況 < 関連P45~52 >

平成26年の海上貨物取扱量について、仙台塩釜港（仙台港区）が4,007万トンと最も多く、次に八戸港の2,738万トン、青森港2,636万トン、小名浜港1,789万トンの順となっている。また、品目別では各港ともに、鉱産品、金属機械工業品、化学工業品の取り扱いが多い。

内航フィーダーコンテナ取扱量（平成27年度）は、仙台塩釜港（仙台港区）61,482TEU（前年度比131.5%）、八戸港15,511TEU（同130.8%）、小名浜港2,972TEU（同86.8%）の順となっている。

外貿コンテナ取扱量（平成27年度）では、仙台塩釜港（仙台港区）が92,210TEU（前年度比107.0%）で最も多く、次に秋田港の45,940TEU（同103.3%）、前年度15,675TEUの酒田港は23,311TEU（同148.7%）と大幅に増加し、この3年ほどで3倍の取扱量となり、八戸港18,730TEU（同105.8%）を上回った。

5. 倉庫保管の状況（平成27年度分） < 関連P64~69 >

年間入庫量は、普通倉庫が822万トン（前年度比73.7%）、冷蔵倉庫は77万トン（同119.8%）となった。

入庫品目別では、普通倉庫では農産品167万トン（同20.3%）が最も多く、食料工業品151万トン（同18.4%）、化学工業品120万トン（同14.6%）の順となっており、この3品目で50%を超え、他に金属、雑工業品、雑品がそれぞれ10%前後となっている。

冷蔵倉庫では、冷凍水産物が25万トン（構成比32.7%）、次いで畜産加工品17万トン（同21.6%）、冷凍食品13万トン（同17.3%）の順で、これら3品目で70%以上を占めている。

6. 航空貨物輸送の状況（平成27年度分） < 関連P79~83 >

国内航空貨物輸送量について、空港別では仙台空港が7,006トン（対前年度比102.5%）と最も多く、次いで青森空港2,662トン（同95.6%）、秋田空港2,111トン（同86.6%）となっている。

【 凡 例 】

1 貨物地域流動調査の調査対象貨物の範囲及び地域の区分は次のとおりである。

(1) 調査対象貨物の範囲

①鉄 道

車扱貨物（混載を含む。）及びコンテナ貨物で、日本貨物鉄道（株）が輸送したものを対象とし、その他の鉄道事業者の輸送分を含まない。

②海 運

港湾調査規則による港湾の海上移入貨物を対象とするが、仕出港が海上となっている貨物、フェリーボートにより輸送された自動車及びその積荷を含まない。

③自動車

営業用及び自家用自動車（霊柩車を除く。）で輸送された全貨物（フェリーボートで輸送された自動車の積荷を含む。）を対象とした。

※ 輸送量はサンプル調査による。

(2) 地域区分

【北海道】 → 北海道

【東 北】 → 青森 ・ 岩手 ・ 宮城 ・ 福島 ・ 秋田 ・ 山形

【関 東】 → 茨城 ・ 栃木 ・ 群馬 ・ 埼玉 ・ 千葉 ・ 東京 ・ 神奈川

【北 陸】 → 新潟 ・ 富山 ・ 石川 ・ 福井 ・ 山梨 ・ 長野

【中 京】 → 静岡 ・ 岐阜 ・ 愛知 ・ 三重

【近 畿】 → 滋賀 ・ 京都 ・ 奈良 ・ 和歌山 ・ 大阪 ・ 兵庫

【中 国】 → 鳥取 ・ 島根 ・ 岡山 ・ 広島 ・ 山口

【四 国】 → 香川 ・ 愛媛 ・ 徳島 ・ 高知

【九 州】 → 福岡 ・ 佐賀 ・ 長崎 ・ 熊本 ・ 大分 ・ 宮崎 ・ 鹿児島 ・ 沖縄

2 数字は、原則として単位未満で四捨五入してあるので、総数と内計は必ずしも一致しない。

3 東北運輸局管内とは、青森県、岩手県、宮城県、福島県、秋田県、山形県の6県をいう。